

神楽



黒塚

法印が宿を借り、ふと奥座敷を見ると人骨の山。逃げ出すと老婆は狐に化け法印を喰い殺そうとした。



狐の衣装

大蛇

須佐之男の尊は大蛇を退治するため、老夫婦に毒酒を用意させ、大蛇に吞ませて見事に退治した。尊が大蛇を切ったとき剣が出てくるが、この剣は「あめのむらくもの剣」と名づけ、姉君の天照大神に献上し三種の神器の一つになったという。

頼政

平安の末期夜毎「鶴」（頭は猿、胴体は牛、手足は虎、尾は蛇）という得体の知れない怪物が出没し時の帝が病魔に冒され苦しみます。それを源頼政が退治する物語。



首に掛けた大きな輪は悪病を払うとされる茅の輪。その輪の威徳で病魔を退治する。

鍾馗



悪着

大江山



大江山にたてこもった酒呑童子という悪鬼と手下を、源頼政が征伐するという物語。

道返し

日本を攻めて来た悪鬼を稲穂の神として育てあげる物語。



恵比寿

様々な祝いの席で行われる舞い。



潮祓

神楽を奉納するときに神殿を清め神をお迎えする意味の儀式舞が行われる。



曲目

- 潮祓 真神
- 恵比寿 道返し
- 塵輪 八幡
- 頼政 天神
- 黒塚 天
- 岩戸 鍾馗
- 大蛇 大江山

神楽を奉納するにあたっては、社殿に天蓋をつるし、横笛・太鼓・締太鼓・合わせ鉦の四人が楽を奏でる。舞いの構成もさまざまに工夫が凝らされ、時代とともに変化し成長している。



▲ 剣霊神社
元龜三年（1572）
讀井雅楽之助が先祖伝来の宝剣を納めて
剣霊社と称して祭った。